

玉川上水遊歩道の地表温度調査から見えること

樹木伐採の影響を考える！



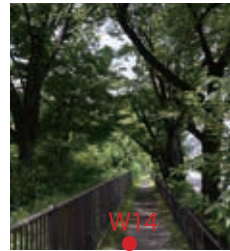
左岸(北側)W10

小金井橋交差点近く、五日市街道沿いに道路標識があるためか、道路側の桜は欠損している。柵内は樹木が生い茂っているが、2017.7.21の遊歩道の地表温度は42.5℃と高かった。ここはH29～31年度にかけて伐採が予定されている。



左岸(北側)W11

2017.7.21の遊歩道の地表温度は27.9℃で、W10と比べると14.5℃も低かった。五日市街道に面しているが、測定場所が桜の大木の間だったためと考えられる。ここもやはりH29～31年度にかけて伐採の予定。伐採されると地表温度が高くなると思われる。



左岸(北側)W14 遊歩道 2017～2019年度、柵内のケヤキなどの樹木の伐採、並びにいたんだ桜は交通事故防止のため伐採予定。遊歩道の木陰はなくなり。車道の熱を遮断するものがなくなり益々熱くなる。



モデル地区関野橋から上流を見る(2012.1.28)。ケヤキなどの樹木に軒並み伐採予定の赤いテープを巻かれたが、玉川上水ネット*の関係者と周辺住民と水道局とで、一本一本見直しをし、その一部が伐採を免れたため、この地区の皆伐は避けられた。

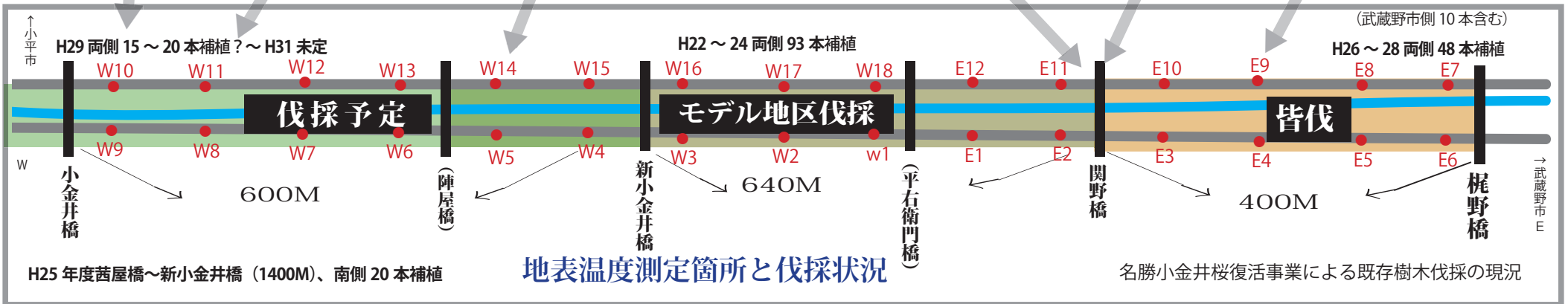


関野橋から下流梶野橋方向を見る(皆伐当時2016.2.22撮影)。モデル地区以降の伐採。桜以外全て伐採され、桜並木を柵内に作る名勝小金井桜(サクラ)復活事業の象徴的な伐採の仕方だった。



左岸(北側)E9

関野橋と梶野橋間、皆伐された地区。このポイントは道路側に桜の枝が高く伸びている(写真右端)が、柵内の樹木が少ないためか、調査地区全体で最も高く、平均地表温度も最も高い。



一地表の温度差は最大で26℃も！

測定して感じたこと：猛暑日に測定して実感したのは、豊かな緑が残る未伐採地区のひんやりと心地よい涼しさと、日光を遮るものが全くない伐採地区のジリジリと焼けつくような厳しい暑さです。その違いを右の表をご覧ください。この夏1番の暑さといわれた7月21日の温度差は何と26.06℃もあったのです。樹々の持つ力には驚くばかりです。温暖化防止のためにも緑を守らなければと改めて思いました。

	伐採予定		モデル地区		皆伐		温度差(最大)	
	W11	W13	W17	E12	E9	E8		
7月21日	27.93	26.87	49.77	45.20	53.47	49.23	E9-W13	26.06
7月31日	27.37	28.57	44.83	37.07	46.63	45.23	E9-W11	19.26
8月28日	27.60	27.60	36.67	38.87	45.57	45.57	E9-W11	18.01

* 調査期間 2017.7.20～9.11の16日間左岸・右岸各15カ所、各100M間隔 月・水・金曜日15時から、平右衛門橋を境に2チームに分かれて調査をしました。上の表は測定の一部です。単位℃

● * 玉川上水ネットはよりよい玉川上水の自然環境を残していくため2011年に設立された。現在26団体と6個人。